

区 潔萍 (オー ケッペイ)

中国出身

筑波大学 人間総合科学研究科障害科学専攻 博士課程

礼儀とは？

数ヶ月前に起きたことだったが、私は共同研究をしている先生に、「学会入会費のお支払いを忘れないでください」とメールで書いたことがある。そのメールの内容に対して、その先生に「失礼だ」と言われた。実は、その前に入会の事情に関して一回メールで連絡したが、返信が来なかったの、二回目のメールでストレートな言い方をした。しかし、自分が善かれと思ったこの一言は、目上の方に失礼なこととして扱われた。

そのメールを読んで、少し不思議に思った。礼儀やマナーそのものは不透明で把握しにくい。日本に来てから、自分の指導教員に何回か「区さんは本当に失礼な人」と言われたことがある。しかし、指導教員はいつも冗談半分で言っているの、本気に受け取っていなかった。しかし共同研究の先生は、普段真面目で冗談をあまり言わないタイプの先生なので、同じことを言われると、背中がビシッと真っ直ぐになって自分が本当に酷いことをした気がする。

社会的礼儀というのは、不思議なものである。人それぞれ発信するメッセージと他人のメッセージを受信する受信機があるとしたら、それぞれ受け入れられる電波の範囲が違うと思った。自分が適切な言葉を発信したとしても、相手の先生が自分の波長に合わない言葉を受け取ったら、「不適切」と判断してしまう。同じ言葉を数名の先生に言って、同じ反応になるかどうかで、その言葉の「適切さ」を判断できるかもしれないが、その実験自体は不適切なのでやめておく。

私の例は該当しないかもしれないが、問題に

なるのは、他国の人間と会話をする時、誰の基準に合わせるかということである。当時、自分が心の中で弁解する言い訳は、「私が外国人だから、こんなマナーが知らないのも当然だ。あの先生が別に怒らなくていいのではない」と思ったが、恐らくその先生が、「大学院生なのに、そんなことも知らなくてどうするの。言ってあげないと。」と考えたかもしれない。でも相手の真意を追及する余地もないから、そんな風に思って受け入れるしかなかった。

そう考えているうちに、ソーシャルスキルというのは、本当に複雑な学問だと気づいた。目上の人と付き合うとき、相手の立場が本位であることは、恐らくアジアを含む多くの国での常識である。私はそんなに不常識な人間なのかと反省すると、本当は距離感の把握に失敗しただけだと思った。今度の場合だと、言っておいた方がいいかと思ったら、そうでもなかった。そういうときは、どこまでが安全なのか、明確な境界線を知りたい。こういうスキルは長い年月を経て経験を積んでいくうちにわかるものではないでしょうか。